

# 日本語とギリシャ語の時間表現対照研究

橋 孝 司

## 1. はじめに

本稿で論じられるのは、標準日本語（以下、日本語）及び標準現代ギリシャ語（以下、ギリシャ語）における「時間」概念の表現形式である。「時間」概念を言語で表現するにはいろいろなレベルが考えられるが、ここでは「土曜日に映画を見た」や「朝から本を読んでいる」における「に」「から」のような「機能語」に注目する<sup>1</sup>。日本語の場合は名詞に後続する格助詞、ギリシャ語の場合は先行する前置詞がこれにあたる。なお、これらと平行して考察するために、「機能語」が現れず、いわば裸の名詞だけが用いられる場合も取り扱うことにする。これらの「時間」表現の「機能語」が二つの言語でどのような体系を示すのかを素描し、両者を対照させることにより、その相違点と類似点を明らかにすることを目的とする。

「時間」表現（及び「空間」表現）を担う「機能語」の対照研究の代表例としては英語と日本語を対照した山田（1981）があり、本稿は同研究の枠組みに従って分析を進めていく<sup>2</sup>。ギリシャ語の時間表現ではHolton-Mackridge-Philippaki（1997:491ff.）とJoseph-Philippaki（1987: 147-151）が体系的に記述しており、随時参照した<sup>3</sup>。

## 2. 時間表現の種類

山田論文は日本語と英語を対照するにあたり、時間表現を意味上の規準に従って五種に分類する（p. 78）。（同論文では [ ] は意味特徴を示すが、本稿でも同じ意味で用いる。）

(i) [時点] : 「いつ、何日に、など」 'when, on what day, etc.' の答えとなるもの。

（例）5月に、けさ、5時で; at six o'clock, in the morning, yesterday

(ii) [継続期間] : 「どのくらい、いつから、など」 '(for) how long, etc.' の答えとなるもの。

（例）朝から晩まで; since 1970

(iii) [継続時間] : 「どのくらい、何時間、など」 '(for) how long, etc.' の答えとなるもの。

（例）3年間、長いあいだ; for three hours

(iv) [所要時間] : 「どのくらいで、など」 'how long does it take to, etc.' の答えとなるもの。

（例）3時間で; in two days

(v) [頻度] : 「どのくらい、何回、など」 'how often, etc.' の答えとなるもの。

(例) 3度、いつも; twice

(ii)と(iii)の違いは(上記以外に定式化された形では述べられていないが)、(ii)が行為・状態の始点ないし終端を示す名詞を含むのに対し、(iii)は行為・状態の継続する期間を示す名詞を含む点にある、と思われる。

山田論文は以上のうち、(i) [時点] と(ii) [継続期間] のみを考察の対照としているが、本稿は(iii) [継続時間] も併せて論じることにする。

### 3. 時点

山田論文は、日本語の [時点] 表現形式として次の三つを挙げる (p.79)。

Xに

Xで

X $\phi$  (機能語が付かない)

「X $\phi$ 」と「Xに」の違いについて山田は次のような例を引き、「X $\phi$ 」は大ざっぱな時点を示し、「Xに」は時が明確に限定されていることを強調する、というAlfonso(1974: 313)の分析を支持する(p.80)。

- (1) あしたの朝／朝にきてください。
- (2) 午前中／午前中に手紙を書きました。
- (3a) 押し売りが帰ったあと気分が悪かった。
- (3b) 押し売りが帰ったあとに客が来た。

Alfonsoによれば(1974:314)、(1)は「に」のある方が「午後ではなく朝に」の含みがある。(2)は「に」がないと「午前中」という期間のほぼ全体を示し、「に」が加わると強調の意味が加わるか、午前中ずっと('all during the morning')ではなく午前中の中で('in the morning')ということを示す。また、山田によれば (p.80)、(3a)は「Xの [全体]」、(3b)は「Xの [部分]」を示すという違いがある(この場合のXは「押し売りが帰ったあとの時間」)。そして、この違いがそれほど際立たない例があることも認めた上で、両者の意味特徴を以下のようにまとめている (p.81)。

Xに X (の [部分]) を [限定] して [時点] として把える。

X $\phi$  X (の [全体]) を [限定しない] で [時点] として把える。

この場合に注目すべきは、多くの [時点] 表現において「に」と「 $\phi$ 」が交替するが、その条件は、Xに入る名詞の種類によるというよりも、「全体」か「部分」かという話者の捉え方にある、という点である<sup>5</sup>。

三つ目の「Xで」は(4a)のような文に現れるが、ある出来事の [完結] する時点を示すとされる (p.83)<sup>6</sup>。

- (4a) 3時で終わった。
- (4b) 3時までで終わった。

また、この「Xで」と並べて「XまでにY」(4b)についても触れ、その意味特徴を「Yの時点がXを期限とする時間領域内にある」とする(p.83)。この「XまでにY」と形態上関連するのが「XまでY」であるが、こちらは「継続期間」に分類されている。本稿では「XまでにY」「XまでY」とこれに対応するギリシャ語表現とを4.「継続期間」の節で論じることにする。

以上の日本語の「時点」表現に対し、ギリシャ語の「時点」表現には次の二種類がある。

前置詞  $\sigma\epsilon$  + 対格名詞

(前置詞なしの)対格名詞

前者の方が使用が限られており、時刻と日付の表現に使われる。まず、時刻については、「～時丁度」でも「～時...分前」「～時...分過ぎ」でも、前置詞  $\sigma\epsilon$  が現れる。(  $\sigma\epsilon$  は定冠詞の直前で母音が落ちて  $\sigma$  となり、冠詞とともに一語として綴られる)。

- (5) *στη μια η ώρα.* 「1時に」  
 (6) *στις τρεις και δέκα* 「3時10分に」  
 (7) *στις πέντε παρά είκοσι* 「5時20分前に」  
 (8) *Η τελετή θα αρχίσει στις δέκα ακριβώς.*  
 「式は10時丁度に始まる予定だ」

Eleftheriades (1985:198)

日付の表現でも、普通、 $\sigma\epsilon$  が基数詞の対格形に前置される。

- (9) *στις είκοσι μία Απριλίου* または *στις είκοσι του Απρίλη*  
 「4月20日に」<sup>7</sup>  
 (10) *Στις 25 του Μάρτη του 1821 ξέσπασε η Ελληνική Επανάσταση ενάντια στους Τούρκους ...*  
 「1821年3月25日トルコ人に対するギリシャ革命が勃発した」E λ. E λ. (p.282)  
 この  $\sigma\epsilon$  が落ちる場合もあるが稀のようである。  
 (11) *στις / ?τις είκοσι Ιουνίου* 「6月20日に」 Joseph-Philippaki (1987: 148)

月の第一日目の表現には序数詞が用いられるが、この場合は通常  $\sigma\epsilon$  が現れない<sup>8</sup>。

- (12) *την πρώτη Οκτωβρίου* 「10月1日に」  
 さらに、より形式張った言い方として、第二日目以降も序数詞で表現することがあるが、この場合も  $\sigma\epsilon$  が落ちる<sup>9</sup>。  
 (13) *Την 28 η Οκτωβρίου του 1940 οί Έλληνες είπαν το ιστορικό “ΟΧΙ” στη φασιστική Ιταλία.*  
 「1940年10月28日ギリシャ人はファシストのイタリアに対し、歴史に残る『否』を返答した」E λ. Γ λ. (p.282)

以上の日付表現をまとめると、序数詞が使われる場合(特に月の第一日目)は  $\sigma\epsilon$  が落

ちるが、通常の基数詞による表現では  $\sigma \epsilon$ +対格形が用いられる、と言える。

時刻と日付表現以外の場合は、原則として、前置詞なしの対格名詞が使用される。

- (14) *το πρωί* 「朝に」
- (15) *το μεσημέρι* 「正午に」
- (16) *το βράδυ, τη νύχτα* 「夜に」
- (17) *τα μεσάνυχτα* 「真夜中に」
- (18) *την Δευτέρα* 「月曜日に」
- (19) *το Πάσχα* 「復活祭に」
- (20) *τα Χριστούγεννα* 「クリスマスに」
- (21) *τον Ιούλιο* 「7月に」
- (22) *την άνοιξη* 「春に」
- (23) *το 1997* 「1997年に」
- (24) *τον εικοστό αιώνα* 「20世紀に」

このうち、「年」は複数名詞として扱われることもあり、その場合は前置詞が現れる。

- (23a) *στα 1997* 「1997年に」

また、これらの名詞が不定冠詞と共に起して不定の [時点] を指す場合や、属格名詞・形容詞・代名詞が付加されて、より細かな限定を受ける場合もあるが、やはり前置詞なしの対格名詞で使用される。

A. 不定冠詞が共起する場合

- (25) *ένα πρωί* 「ある朝」
- (26) *ένα βράδυ* 「ある夜」
- (27) *μια μέρα* 「ある日」

B. 属格名詞句が共起する場合

- (28) *τα ξημερώματα ... της 21ης Δεκεμβρίου 1995* 「1995年12月21日の明け方に」
- (29) *το βράδυ της περασμένης Τετάρτης* 「先週の水曜日の夜に」
- (30) *την παραμονή του Χριστουγέννων* 「クリスマスの前日に」
- (31) *παραμονές του Πάσχα* 「復活祭の前日に」
- (32) *τις ημέρες του καρναβαλιού* 「カーニバルの日に」
- (33) *τον Φεβρουάριο του 1992* 「1992年2月に」
- (34) *την εποχή του Σάίξπηρ* 「シェークスピアの時代に」

C. 形容詞・代名詞が共起する場合

- (35) *εκείνη την ώρα* 「その時間に」
- (36) *κάποιο χειμωνιάτικο βράδυ* 「ある冬の夜に」
- (37) *κάποια μέρα* 「ある日」

- (38) *την άλλη μέρα* 「翌日に」  
 (39) *τον περασμένο Σεπτέμβριο* 「去る9月に」  
 (40) *την ίδια χρονιά* 「同じ年に」  
 (41) *εκείνη την εποχή* 「その時代に」

D. 以上の要素が組合わさって共起する場合

- (42) *τις τελευταίες ημέρες της ζωής του* 「彼の生涯の最後の日々に」  
 (43) *μια κρύα ημέρα του Οκτώβρη* 「10月のある寒い日に」  
 (44) *μια μέρα της άνοιξης* 「ある春の日に」

不定冠詞A. の場合は不定 [時点] であるのはもちろんだが、B-D の場合には定冠詞・不定冠詞 (あるいは(31)のような無冠詞) のいずれも共起可能であり、不定 [時点] も定 [時点] も表現し得る、と言える。

以上のように、[時点] 表現には通常裸の対格名詞が使われ、*σε* + 対格名詞の使用は限られているが、時刻・日付以外でも *σε* が使われる場合が観察される。その例を以下に記しておく<sup>10</sup>。

まず、ある期間の「初め、半ば、終わり」を示す語、具体的には *αρχή* 「初め」、*μέσο* 「半ば」、*τέλος* 「終わり」は *σε* + 対格名詞の形を取る。

- (45) *στις αρχές Ιουνίου* 「6月の初めに」  
 (46) *στις αρχές του αιώνα μας* 「今世紀の初めに」  
 (47) *στο μέσο του αιώνα* 「世紀の半ばに」  
 (48) *στα μέσα του καλοκαιριού* 「夏の半ばに」  
 (49) *στο τέλος του Απρίλη* 「四月の終わりに」

次に、「年齢・年代」を示す名詞、具体的には *ηλικία* 「年齢」、*χρόνια* 「年」が用いられる場合も前置詞 *σε* が先行する。

- (50) *σε μικρή ηλικία* 「幼年期に」  
 (51) *σε παιδική ηλικία* 「少年時代に」  
 (52) *Σε αυτή την προεφηβική ηλικία* 「思春期初めの年齢で<sup>11</sup>」 *Βήμα* 13-4-1997  
 (53) *Στα 73 χρόνια του ο Α δεν αισιοδοξεί πλέον* 「73歳でA氏はもはや明るい望みを失っている」 *Βήμα* 27-4-1997  
 (54) *Στα πρώτα φοιτητικά του χρόνια ερωτεύεται ένα κορίτσι* 「学生時代の初めにある少女に恋をする」 *Βήμα* 29-6-1997  
 (55) *Στα παλιά τα χρόνια, οι ηγέτες των κρατών και των κομμάτων δεν είχαν νομοθετικά σώματα ούτε κεντρικές επιτροπές ...* 「昔 (以前の時代に) は国家や政党の指導者は立法組織も中央委員会も持たなかった」 *Ένα* 3 17-1-1990 (p.123)

日本語とギリシャ語の[時点]表現を対照させてみると次のようなことが分かる。日本語の[時点]表現は、「Xに、Xで、Xで」の三種類があるが、前二者間の違いは、名詞Xの種類に基づくというよりも、Xの部分を限定して捉えるか否か、という言語使用者の観方の問題に関連している。ギリシャ語の方は'σε X'と'φ X'の二つの形式があるが、基本的には、名詞Xの種類によって決定される。つまり、両言語とも「機能語」が現れたり現れなかったりするけれども、それを律する条件は異なっている<sup>12</sup>。

#### 4. 継続期間

この節では、[一定の期間継続する行為・状態の始点ないし終端]がどのような機能語で表現されるのかを検討する。

日本語の[継続期間の始点]は「Xから」、[終端]は「Xまで」で表される。山田論文は、「から」、「まで」の特徴を次のように記述する。

XからY Yの時間領域の始点がXである。(p.91)

XまでY Yの時間領域の終端がXである。(p.89)

また形態上「まで」に関連する「までに」の意味特徴は次のようになる。

XまでにY YがXを期限とする時間領域内にある。(p.83)

ギリシャ語の場合、[継続期間の始点]は'από X'、[終端]は'μέχρι X'により表現される<sup>13</sup>。後者には、他にως, έως, ίσαμε等の前置詞もあるが、統語意味的にはμέχριとはほぼ等価である、とされる<sup>14</sup>。

(56) Οι εκδηλώσεις του φεστιβάλ θα κρατήσουν από την Τρίτη μέχρι και την Κυριακή. 「祭りの催しは火曜日から日曜日まで続くだろう」 Holton-Mackridge-Philippaki (1997:495)

(57) Ο Νίκος δουλεύει από το πρωί ως το βράδυ. 「ニコスは朝から晩まで働く」 E λ. Γ λ. (p.133)

(58) Το ρεύμα έχει κοπεί από τις 7:00. 「7時から電気が切れている」 E λ. Γ λ. (p.164)

(59) Μπορώ να το κρατήσω μέχρι την Κυριακή;  
「日曜日までこれを手元に置いてもいいですか?」 Eleftheriades (1985:462)

[継続期間の始点]の από は、行為が発話時以前に終了しているのか、いまだ継続中であるのかという点には関係なく用いられる。

(60a) Τον περίμενα από τις έξι μέχρι τις επτά.  
「6時から7時まで彼を待っていた」 Holton-Mackridge-Philippaki (1997:381)

(60b) Τον περιμένω από τις έξι και δε φάνηκε ακόμα.  
「6時から彼を待っているがまだ現れない」 (Ibid.)

(60a) は、過去に一定の期間継続した行為を示すのに対し、(60b) では過去に始まった

行為が発話時にも継続中である。しかるにいずれの場合も、行為の〔始点〕は *από* で示されている<sup>15</sup>。

〔継続期間の終端〕表現の「XまでY」と「XまでにY」の違いは、簡単に言えば、Yの行為・状態がXの時点を含み得るか否か、ということになる。ギリシャ語では、同じ *μέχρι* (ないし *ως*, *έως*) が、その両概念を表すことが出来る。Stavropoulos の辞書(1988:550)はこの点を、以下のような例で明解に示している<sup>16</sup>。

(61) *Θα είμαι στο γραφείο μέχρι τις 6.*

「6時まで事務室にいるつもりだ(6時までの全時間帯)」

(62) *Θα επιστρέψω μέχρι τις 6.*

「6時までに帰るつもりだ(6時より前のある時点)」

Xに当たる「6時」は(61)の「事務室にいる」行為に含まれているのに対し、(62)の「帰る」行為には含まれていない。(62)には「瞬時態未来形」が用いられているが、「完了態未来(すなわち未来完了)形」を用いれば「Xまでに」の意味概念〔ある期限Xよりも前に終了する行為Y〕をより明確に表現することが出来る。「完了態未来」の例を挙げておこう。

(63) *Θα έχουμε τελειώσει τη δουλειά μέχρι την Κυριακή.*「我々は日曜日までに仕事を終えるだろう」Holton-Mackridge-Philippaki (1997:495)

(64) *Ως το καλοκαίρι θα έχω διαβάσει το βιβλίο.*

「夏までにその本を読み終えるだろう」E λ.Γ λ. p.75

これらに対し、他のアスペクトを持つ(56) *θα κρατήσουν*「続くだろう(瞬時態未来)」、(57) *δουλεύει*「働く(継続態現在)」、(59) *να το κρατήσω*「手に置くこと(瞬時態接続法)」、(61) *θα είμαι*「いるつもりだ(継続態未来)」などは「Xまで」、すなわち〔Yの時間領域の終端がX〕の読みになっている。ただし、「完了態」以外のアスペクトは「Xまでに」の意味特徴を持ち得ない、というわけではない。たとえば、次例は「継続態未来形」の *θα είναι*「～であろう」を含むが、「Xまでに」の読みを持つ。

(65) *Το κοστούμι σας θα είναι έτοιμο μέχρι το Σάββατο.*

「貴方の衣装は土曜日までには準備できているでしょう」Holton-Mackridge-Philippaki (1997:396)

この読みを引き出すのは形容詞 *έτοιμο*「準備出来た」の存在であると思われる。つまり、動詞の形態論的アスペクトのみならず、(動詞を含めた)述語の語彙的アスペクトも「Xまでに」の読みを導出する契機になり得る。*έτοιμο*のように、述語が動作の完了する時点を含んでいるならば、「完了態」でなくてもこの意味特徴を表現することが出来る。

日本語とギリシャ語の〔継続期間〕表現を対照させると、次のようなことが言える。〔継続期間の始点〕の「Xから」と *από* X、〔継続期間の終端〕の「Xまで」と *μέχρι*

(または  $\omega\varsigma$ ,  $\acute{\epsilon}\omega\varsigma$ ,  $\acute{\iota}\sigma\alpha\mu\epsilon$ ) X'、はそれぞれ概ね対応している。ことに「Xから」と 'από X' の方は、発話時における行為の存続の有無といった条件に煩わされることなく使用できるという点で、よく対応している。しかし、「Xまで」と 'μέχρι X' の方は、[ある期限Xよりも前に終了する行為Y] という意味概念が問題となる場合、対応にずれが生じる。つまり、ギリシャ語は機能語 'μέχρι X' の部分は同じだが、述語のアスペクトを換える（特に「未来完了態」）のに対し、日本語は機能語自体を「Xまでに」とすることでこれを表現しようとする。

## 5. 継続時間

この時間概念では、Xが「単位名詞」である、というのが前提とされている。'five months, two weeks' のように時間を測る単位となる名詞を、山田論文は「単位名詞」と呼んでいる (p.77)。同論文は、この概念を考察の対象とはしていないが、その78頁に日英語の簡単な対応式を示している。

日: X (かん)      彼は大阪に2年 (かん) 住んだ。

英: (for) X      He lived in Osaka (for) two years.

ギリシャ語でこの時間表現に対応する主要な形態は次の二つである<sup>17)</sup>。

前置詞なしの対格名詞

前置詞  $\gamma\iota\alpha$  + 対格名詞

諸文法書は、 $\gamma\iota\alpha$ の有無は随意的であるが、これを欠く形（つまり裸の対格名詞）が普通であるとする。

(66) Η μάχη κράτησε ( $\gamma\iota\alpha$ ) πολλές μέρες.

「戦いは何日(間)も続いた」 Holton-Mackridge-Philippaki (1997:386, 493-4)

(67) Έζησα εκεί ( $\gamma\iota\alpha$ ) τρία χρόνια.

「私はそこに三年(間)住んだ」 Joseph-Philippaki (1987: 149)

ある文脈では  $\gamma\iota\alpha$  が義務的である、とされる。

(68) Ηρθα  $\gamma\iota\alpha$  / \* $\phi$  μια βδομάδα.

「私は一週間の予定でやって来た」 Joseph-Philippaki (1987: 149)

しかし、この場合は「来る」行為が一週間継続したのではなく、一週間滞在する予定で来た、の意味であるから、[継続時間] の例にはならない<sup>18)</sup>。

[継続時間] に関して日本語とギリシア語の対応を考えてみると、ともに「機能語」の落ちる形が用いられる、という点で平行している。但しギリシャ語の方は、[時点][継続期間] 表現には見られなかった前置詞  $\gamma\iota\alpha$  を随意的に付加することが出来る点が特徴的である。



## 7. 結論

本稿で考察された点をまとめると以下ようになる。

	日本語	ギリシャ語
(i) 時点	φ / に	σε / φ
日付・時刻 <sup>19</sup>	φ / に	σε
その他	φ / に	φ
(ii) 継続期間		
始点	から	από
終端	まで / までに	μέχρι / ως / έως / ίσαμε
(iii) 継続時間	φ	για / φ

日本語とギリシャ語の時間表現の相違点として顕著であるのは「[時点]」に関してであろう。日本語は「に」の有無が、主に、「[時点]」の部分限定してとらえるか否か、という話者の観方に基づいている。これに対し、ギリシャ語は「[時点]」表示の名詞の種類によって決定されてしまう。

他方、類似点として、「[継続期間]」「[継続時間]」に関する次の二点が上げられよう。まず、「[継続期間]」の「機能語」は両言語において省略されない。次に、「[継続時間]」は両言語とも裸の名詞で表現可能である。(但しギリシャ語は *για* が付加されることもある。)

### 注

1 山田(1981:55)によれば「機能語 <function words>」は「文法的概念以外にほとんど何の意味も持たない語」(C. Fries, *American English Grammar*, 1977:109)であり、英語の前置詞・助動詞・接続詞等を含む、という。

2 引用名なくページ数が記される場合は全て山田(1981)からである。

3 Joseph-Philippaki (1987)はギリシャ語の例をローマ字表記しているが、本稿ではギリシャ文字に戻して引用する。

4 「意味特徴」の説明として「【場所、表面などの分割できない単一的意味】より小さな仮構の意味単位(意味特徴)(p.56)」、「意味特徴を [ ] に入れて示す(p.57)」。

5 但し「X φ」を許さない「時間名詞」があることにも注意すべきである。Maynard (1990:70, 103) が指摘するように「時刻」表現の場合は「に」が義務的であろう(「5時に / φ 彼と会う」)。

6 宮島・仁田(1995:74-82)は「Xで」が「[完結]」以外の文脈でも使用される(「2月18日で26歳になった」)ことに着目、その意味をX「の表す時点までの経過を含意して、達成・到達点として指す」(p.78)と、より一般的に定式化する。他に森田(1989:756-760)。

7 後者 *στις είκοσι μια του Απρίλη* の方が口語的 (Eleftheriades, 1985:

132)。

8 Eleftheriades (1985:198-9) は時折 *στην πρώτη* も使用されるとするが、用例には *την πρώτη Μαρτίου* を挙げる。Joseph-Philippaki (1987: 148) は (*σε*) *την πρώτη Ιουνίου* と記す。Holton- Mackridge-Philippaki (1997: 258, 300, 494) は *σε* なしの *την πρώτη* のみを認めている。

9 Eleftheriades (1985:198) によれば、より official な表現。他の例として Eleftheriades (1985:200)、Joseph-Philippaki (1997: 148) 参照。

10 Joseph-Philippaki (1987:147) によると、*σε* を用いた時間表現は常に定(definite) であり、定冠詞が生起する。但し例外として本稿の(50)(51)が挙げられよう。

11 この例と次例においてのみ、日本語「で」が対応する点は注目される。そもそも名詞「年齢」、「～歳」に「に」が後続する場合は限られている(「30歳で/\*に就職した」)。時間表現の「で」の意味については注6参照。但しこの場合は、文全体の「達成・到達点」といった意味特徴よりも、時間名詞の種類による「機能語」選択の問題のように思われる。例えば(50)の「幼年期」を「幼い年齢」に換えると、後続するのは「で」である(「幼い年齢で/\*に母親と死に別れた」)。また、「～歳」に他の名詞を後続させると「に」が可能になる(「30歳の時に就職した」)。

12 日本語「時点」表現で、名詞の種類が関連している可能性のある場合として、注11。

13 このほかに「終端」表現としては '*με X*' があるが、本稿では対象としない。

14 Holton-Mackridge-Philippaki (1997:388, 405) 参照。

15 すなわち *από* は英語の *from* と *since* の両者に対応する。なお、(60b)のように、過去に始まり発話時も継続中の行為には、ギリシャ語は「完了形」ではなく、「現在形」を用いる。他方、行為自体は過去のある時点で終了したが、その結果が発話時にも継続する場合には、「現在完了形」が用いられる。但しその場合でも、行為が完了し、同時に結果の存続が始まった「始点」は *από* で表される。

*Έχω σηκωθεί από τις 5:00.*

「私は(すでに)5時から起きている」E λ.Γ λ. (p.164) (例58も参照)。

16 他の指摘として "It [= *μέχρι*] is also used, of time, to express time at or before which ('by')." (Holton-Mackridge-Philippaki, 1997:396)

17 その他の形式としては *σε* + 対格名詞や *εδώ και* + 対格名詞がある。まず、*σε* + 対格名詞を二例挙げる。

*Κάναμε τη δουλειά σε έξι ώρες.* 「6時間その仕事をした」

Holton-Mackridge-Philippaki (1997:402)

*Στις πέντε ώρες που κράτησε το ταξίδι απ' την Αθήνα ...*

*Ιωάννα αγωνιζόταν*

「アテネから旅路の5時間、ヨアナは心の中で格闘していた」Φακίλινου(1989:27)

εδώ καιに関してΚριαράς (1995:414)は、①過去時に始まり継続中の行為の継続時間、②ある行為が生じてから現在まで(ないし過去のある時点)に過ぎた時間、の二義を立てる。②の例としては以下の文が挙げられているが、「= πριν (από) ~前に」の注記でも明らかのように、「継続時間」を示すものではない。

Εστειλα τα χρήματα εδώ και λίγες μέρες.

「数日前にお金を送った」

①の例としては、二つの文が挙げられている。

Είμαστε φίλοι εδώ και δεκαπέντε χρόνια.

「我々はここ15年間の友人である」

Έχει αλλάξει συμπεριφορά εδώ και λίγο καιρό.

「彼は最近振る舞いを変えた」

前者は「友人である」状態の継続(動詞は「現在形」、後者は「振る舞いを変える」行為の結果の継続(動詞は「現在完了形」)、と言えよう。この二つのタイプに同じ[継続時間]の標識が用いられている点は、[継続期間]の[始発]の二つのタイプに από が用いられるのと平行している。

18 その意味で(68)は以下のような例に近い。

θα έρθει για το Πάσχα.

「復活祭を過ぎに来るだろう」Κριαράς (1995:295).

19 但し日本語の時刻表現の方は「に」が義務的。

## 引用文献

- 宮島達夫・仁田義雄(編)(1995).『日本語類義表現の文法(上)単文編』くろしお出版.  
森田良行(1989).『基礎日本語辞典』角川書店.  
山田進(1981).「機能語の意味の比較」『日英語比較講座3意味と語彙』大修館書店.  
Alfonso, A. (1974). *Japanese Language Patterns*. Tokyo: Sophia University.  
Μπαμπινιώτης, Γ. (1996<sup>2</sup>). *Ελληνική γλώσσα: εγχειρίδιο διδασκαλίας της νεοελληνικής ως δεύτερης (ξένης) γλώσσας*. Αθήνα: Ίδρυμα μελετών Λαμπράκη.  
Eleftheriades, O. (1985). *Modern Greek: A Contemporary Grammar*. California: Pacific Books.  
Φακίνου, Ε. (1989). *Η μεγάλη πράσινη*. Εκδ. Καστανιώτη.  
Holton, D., Mackridge, P. & Philippaki-Warbuton, I (1997). *Greek: A Comprehensive Grammar of the Modern Language*. London & N.Y.: Routledge.  
Joseph, B.D. & Philippaki-Warbuton, I. (1987). *Modern Greek*. London: Croom Helm.

- Κριαράς, Ε. (1995). *Νέο ελληνικό λεξικό της σύγχρονης Δημοτικής γλώσσας*. Εκδοτική Αθηνών.
- Maynard, K. (1990). *An Introduction to Japanese Grammar and Communication Strategies*. The Japan Times.
- Stavropoulos, D.N. (1988). *Oxford Greek-English Learner's Dictionary*. Oxford UP.
- (なお引用例中の Ε λ. Γ λ. は Μπαμπινιώτης, 1996<sup>2</sup>)